

日本周産期・新生児医学会 第41回周産期学シンポジウム演題募集要項

テーマ：周産期感染症への対応を再考する -これからの課題と対策-

演題募集

多くの医療分野では感染症への対応を避けて通ることは出来ません。この点は周産期医療においても例外ではありません。周産期における感染症は、感染症に罹患した妊婦だけではなく胎児や新生児にも重大な影響を及ぼすことがあることはよく知られています。これまで人類は、感染症を克服するために様々な検査・診断技術に加えてワクチンや治療薬を開発してきました。それにもかかわらず、世界各地で感染症の流行が繰り返し報告されています。近年の周産期感染症の流行例としては、2013～14年のわが国における先天性風疹症候群の多発、2015～16年のメキシコやブラジルにおける妊婦のジカウイルス感染症による先天性小頭症の発症などが記憶に新しいのではないのでしょうか。そして私たちは、今まさに新型コロナウイルス感染症 (coronavirus disease 2019: COVID-19) によるパンデミック、いわゆるコロナ禍のもとでの周産期医療を持続させることを余儀なくされています。COVID-19のパンデミックの終息時期は不明ですが、この経験によって、新たに浮き彫りとなった周産期感染症に関する課題も多々あるのではないかと思います。考え方を変えれば、with コロナの時代こそ、新たな課題を明らかにしつつ周産期感染症を見直す時期なのではないのでしょうか。

このような背景の中で、第41回周産期学シンポジウムのテーマを「周産期感染症への対応を再考する -これからの課題と対策-」とさせて頂きました。本シンポジウムでは、周産期感染症としての細菌・ウイルス・真菌感染症の取り扱いに関する課題と対策について多角的に議論する演題、すなわち「周産期感染症」というメインキーワードに加えて、後述するキーワードに関連した演題を広く募集します。なお、今回は絨毛膜羊膜炎、感染に関連する流産の病態生理や性感染症に関する研究課題はテーマと方向性が異なるため対象としません。

周産期学シンポジウムでは、発表の約1年半前に応募を受け付け、運営委員とともに研究計画等を吟味し、内容を発展させます。このような特性上、既報の研究成果のみではなく、新たな知見を期待できる発展性のある意欲的な研究課題の応募を希望します。また、基礎研究の演題も受け付けますが、臨床応用への道筋や客観的な評価が明確である演題を望みます。

キーワード

敗血症、髄膜炎、肺炎、壊死性腸炎、人工呼吸器関連肺炎、カテーテル関連血流感染、院内感染、母子感染、垂直感染、水平感染、接触感染、飛沫感染、エアロゾル感染、空気感染、媒介物感染、bacterial translocation、劇症型A群溶血性連鎖球菌 (Group A Streptococcus: GAS) 感染症、B群溶血性連鎖球菌 (Group B Streptococcus: GBS) 感染症、Methicillin-resistant Staphylococcus aureus (MRSA) 感染症、Human T-cell leukemia virus type 1 (HTLV-1) 感染症、TORCH症候群、水痘ウイルス感染症、新型コロナウイルス感染症 (coronavirus disease 2019: COVID-19)、インフルエンザウイルス感染症、Respiratory syncytial virus (RSV) 感染症、真菌感染症、血球貪食症候群 (hemophagocytic lymphohistiocytosis: HLH)、感染予防、手指衛生、個人用防護具 (personal protective equipment: PPE)、標準予防策、接触予防策、飛沫予防策、空気予防策、ワクチン、院内感染対策、ゾーニング、

コホーティング、陰圧室、感染制御、感染コントロールチーム (infection control team: ICT)、アウトブレイク、クラスター、オーバーシュート、パンデミック、細菌培養検査、PCR 検査、抗原検査、スクリーニング、ユニバーサルスクリーニング、監視培養、診断、胎盤病理、エンドトキシン、サイトカイン、プロバイオティクス、プレバイオティクス、シンバイオティクス、人工知能 (artificial intelligence: AI)、治療、体外式膜型人工肺 (extracorporeal membrane oxygenation: ECMO)、交換輸血、免疫グロブリン療法、血液浄化法、血漿療法、予後、手術、麻酔、妊婦の発熱、産褥熱、妊娠分娩管理、帰省分娩、分娩立ち合い、産後うつ、自死、面会制限、オンライン診療、オンライン面会、オンライン立会い出産、新生児蘇生、母乳の取り扱い、母乳バンク、ガイドライン、出産数、周産期医療体制、医療従事者のメンタルケア、病棟閉鎖、経済的インパクト、医療崩壊、クリニック閉院

応募要項

1. 応募書類：「応募用紙」「抄録用紙」「発表者の利益相反自己申告書*」の3点です。下記URLよりデータをダウンロードしてください。

- 1) 応募用紙：http://www.jspnm.com/syukai/doc/oubo_41.xlsx
- 2) 抄録用紙：http://www.jspnm.com/syukai/doc/syoroku_41.xlsx
- 3) 発表者の利益相反自己申告書：<https://www.jspnm.com/aboutgakkai/pdf/rsj2A.docx>
<https://www.jspnm.com/aboutgakkai/pdf/rsj2A.pdf>
(Word版にてフォーマットが崩れる場合は、PDF版をご利用ください)

*利益相反指針及び指針細則は以下のURLを参照ください。

<https://www.jspnm.com/aboutgakkai/pdf/rss190816.pdf>

2. 応募演題の注意点

- 1) 同一施設からの応募数に制限はありませんが、同一応募者は複数の演題を応募できません。
 - 2) 応募者は原則として会員（応募～発表時まで）かつ単名に限ります。なお、共同研究者等の名前を示す場合は、演題発表の際に謝辞等として示してください。
 - 3) 過去に周産期学シンポジウムで応募演題を2回以上発表した会員は演題応募できません。
 - 4) 前向き・後ろ向き研究に関わらず、応募には施設の研究倫理審査委員会・Institutional Review Board等への申請が済んでいることが必要で、最終選考（2022年6月予定）までに承認が必須です。
3. 応募方法：「応募用紙」「抄録用紙」「発表者の利益相反自己申告書」を、E-mailの添付文書として学会事務局宛、件名は「第41回周産期学シンポジウム応募演題」として送信ください。

4. 応募用紙

- 1) 下記【「応募用紙.xlsx」への入力に関する注意】に沿って作成ください。
- 2) 応募用紙のファイル名は「発表者名-応募用紙.xlsx」としてください。

5. 抄録本文

- 1) 抄録本文は、目的～考察：1,600字以内＋今後の研究計画（シンポジウムでの発表までに実現可能な内容）：200字以内（文字数厳守）、図表不可とし、MS Excel形式で保存してください。
- 2) 文字数のカウントは、それぞれの枠下に返された数とします。
- 3) 目的、方法、結果、考察、今後の研究計画の順に記載ください。
- 4) 個人情報や生命倫理等、特に倫理的配慮を必要とする研究である場合は、行った具体的配慮について記載ください。
- 5) 抄録本文のファイル名は「発表者名.xlsx」としてください。

6. 発表者の利益相反自己申告書

- 1) 【利益相反に関する自己申告書の提出】に沿って作成ください。
- 2) 利益相反自己申告書のファイル名は「発表者名-利益相反.docx（または.pdf）」としてください。

7. 演題送信先：info@jspnm.org（日本周産期・新生児医学会事務局）

8. 応募締切：**2021年9月30日（木）13:00 厳守**

9. 問合せ先：日本周産期・新生児医学会事務局

〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町2-30 メジカルビュー社内

TEL：03-5228-2074 FAX：03-5228-2104 E-mail：info@jspnm.org

*演題受付後、10営業日以内に事務局より「受付メール」をお送りいたします。連絡がない場合は事務局に問合せください。

*応募演題は周産期学シンポジウム運営委員会による書類選考、一次選考、最終選考を行い、2022年6月までに第41回周産期学シンポジウム口演演題として決定する予定です。

*書類選考：演題応募者には、2021年11月22日（月）までに書類選考結果をお知らせいたします。

*一次選考：書類選考通過者は、2021年12月17日（金）の一次選考会（東京）に出席いただきます。一次選考会では、スライドを用いたプレゼンテーション（7分間：時間を厳守して下さい）と、運営委員との質疑応答（8分間）を行います。一次選考会終了後、選考結果をお知らせいたします。応募者が出席できない場合は、演題が不採択となることがあります。

*最終選考：一次選考通過者は、2022年6月の最終選考会（東京）で再度スライドを用いたプレゼンテーション（10分間：時間を厳守して下さい）と、運営委員との質疑応答（8分間）を行います。最終選考会終了後、最終結果をお知らせいたします。

【「応募用紙. xlsx」への入力に関する注意】

1. 必要事項はすべて入力ください。
2. 非会員の方は応募の時点で入会手続きを済ませて頂きますようお願いいたします。学会ホームページより手続きできます。

問合せ先：日本周産期・新生児医学会事務局

<https://www.jspnm.com>

TEL：03-5228-2074 FAX：03-5228-2104 E-mail：info@jspnm.org

【利益相反に関する自己申告書の提出】

日本周産期・新生児医学会が定めた利益相反指針及び指針細則に則り、「発表者の利益相反自己申告書（様式2-1）」の提出が必要となります。

原則として利益相反の有無は演題の採択には影響しません。

演題が採択された場合、利益相反状態の有無にかかわらず、発表演題の最初のページ（スライド）に利益相反状態を明記してください。記載例を以下に示します。

◆利益相反状態にない場合の記載例

筆頭演者氏名：○○○○

研究責任者：○○○○

所 属：△△△△産婦人科

私の今回の演題に関連して、開示すべき利益相反状態はありません。

◆利益相反状態にある場合の記載例

筆頭演者氏名：○○○○

研究責任者：○○○○

所 属：△△△△産婦人科

私の今回の演題に関連して、開示すべき利益相反状態は以下のとおりです。

- ・報酬額/ ○○製薬株式会社
- ・講演料/ □□製薬株式会社
- ・原稿料/ ◇◇製薬株式会社
- ・研究費・助成金（寄付講座所属）/ 株式会社××

2021年2月

日本周産期・新生児医学会
周産期学シンポジウム運営委員会